

年 組 名前：



かぬしこねこすく 飼い主がいらない子猫救う

「ミルクボランティア」は山梨県動物愛護指導センターに持ち込まれた、飼い主がいらない生後間もない子猫を一時的に引き取り、自ら食べられるようになる生後約2カ月まで、授乳、排せつ補助などの世話をします。

センターには野良猫が住宅の軒下や倉庫などで産んだ子猫が、発見者や市町村から持ち込まれます。センターでは子猫を全て育てることができなかつたため、やむを得ず処分（体が弱かったり病気がかかったりして死んでしまったものを含む）される子猫もいましたが、一匹でも多くの命を救って飼育を希望する人に譲渡するためミルクボランティアの活動が始まりました。

センターによると、2016～19年度の子猫の処分率は50%以上でしたが、ボランティア開始後は30%以下になりました。ミルクボランティアに育てられた子猫に限れば、センターに戻された276匹は全て新しい家族が見つかりました。

去年6月から、ミルクボランティアとして約10匹の子猫を育ててきた甲府市の自営業女性(47)に活動について聞きました。

預かる子猫の数は1回につき1～3匹。ミルクや離乳食、ペットシーツなど子猫に必

要な品は全てセンターから支給されます。哺乳瓶などを使って毎日6～8回、3～4時間おきに授乳します。また、親猫のように子猫のおしりを優しくたたき、排せつを促します。

離乳前の子猫はとても繊細なため、体調の変化に注意しなければいけません。ミルクボランティアは授乳時間や授乳前後の体重、排せつの有無をノートに記録するなど、子猫の体調管理に気を付けています。

夜中でも3時間おきに起きてミルクをあげたり、体調が悪いときにはセンターに連れて行って獣医師に診てもらったりします。大変なことも多いですが「子猫の成長を見られることがうれしく、猫のかわいさに自分自身も癒やされます」と言います。飼い主が見つかりやすいように、人になつく猫に育てほしいという思いから、子猫とのスキンシップを大切にしているそうです。

センターはミルクボランティアとして活動してくれる人や、持ち込まれた犬や猫の飼い主を募集しています。女性は「一匹でも多くの猫が助けられればいいなと思っています。興味のある人は、ミルクボランティアに参加してほしい」と話します。



おなかを下にした状態で体を支えながら授乳します
＝甲府市内



山梨県動物愛護指導センターからミルクや離乳食、ペットシーツなどが支給されます

(2022年6月30日付 山梨日日新聞 週刊こぴっと2面)

問1 「ミルクボランティア」では、どのような活動をしていますか。

.....

.....

問2 この活動について、あなたはどのように感じますか。感想を書いてください。

.....

.....